茶畑 SRtimes
特大号 Special!

第 220 号「SSH 台湾海外研修」号
2025 年 3 月 28 日発行
発行元　宮城県仙台第一高等学校「ＳＳ国際交流」選択者

2025 年 3 月 8 日（土）から 3 月 15 日（土）の日程で「SSH 台湾海外研修」が行われました。この研修は「トランス・サイエンス社会」で自己実現できる「科学技術イノベーション・リーダー」の育成を目標とし、本校が毎年行っている海外研修です。学校設定科目である SS 国際交流を選択している生徒 32 名が参加し、台湾国立清華大学、南投高級中学校、大同高級中学校などを訪問しました。

この研修を行うにあたり、台湾の教育制度や大学留学制度、食文化や政治、そして歴史や地理的条件について学ぶため「台湾レポート」を作成し、それを発表することで台湾に関する知識を深めてきました。また、課題研究の成果発表を英語で行うため、プレゼンテーションの手法を学び、校内外で英語による課題研究ポスター発表を行うなど数多くの実践を通じ発表準備を行ってきました。今回の SRtimes では 7 日間に及ぶ台湾研修についてご報告したいと思います。

○研修日程（現地時刻）　時差１時間　（日本７時－台湾６時）

月日(曜)	行程・研修先	現地時刻	実施内容	備考
2025 03/08 （土）	仙台空港着 仙台空港発 桃園国際空港着 桃園国際空港発	15：15 17：15 20：35 21：30 22：00	仙台空港集合 ✈ 空路、台北・桃園空港へ…（4 時間 15 分） 空港到着後、入国審査へ　入国手続き後、現地ガイドと合流 MRT にてホテルへ移動 ホテルチェックイン 【台北 泊】	夕食： （機内食）
03/09 （日）	台北・台中市滞在	08：30 09：30 11：45 15：00 16：30 17：00	ホテル出発 国立故宮博物院見学 台中に向けて出発 彩虹眷村散策 ホテルへ向けてご出発 ホテルチェックイン 【台中 泊】	朝食：ホテル 昼食：サービスエリアにて各自 夕食：各自
03/10 （月）	台中市滞在	07：30 08：15 17：00 17：30	ホテル出発 国立南投高級中学 午前：ポスター発表、体験授業、 午後：討論会、交流会 ホテルへ出発 ホテル到着後、各部屋にて研修報告書作成 【台中 泊】	朝食：ホテル 昼食：学食にて各自 夕食：各自

03/11 （火）	台中・新竹市滞在	09：30 10：00 13：30 15：00 17：00	ホテル出発 921 地震教育園区 ※地震のメカニズムと防災科学について学習 国立清華大学清斎会館へ出発 大学到着 清華大学学生寮利用ガイダンス・大学施設見 Education Building R103 にて日本人研究者・留学生と交流(研究発表・懇談) 【新竹　泊】	朝食：ホテル 昼食：レストラン 夕食：各自
03/12 （水）	新竹市滞在	09：00 09：30 12：00 13：00 16：30 17：00	学生寮出発 国立清華大学脳科学研究センター ① ナノテクセンター施設見学・講義聴講 昼休み ② 国立清華大学先住民科学開発センター 施設見学・講義聴講 国立清華大学清斎会館 報告書作成＆口頭発表準備 【新竹 泊】	朝食：各自 昼食：各自 夕食：各自
03/13 （木）	台北市滞在	09：00 12：30 15：00 16：00 18：30 19：30	清斎会館出発 専用バスにて台北市内観光 ① 忠烈祠見学 ②国立中正記念堂見学 中山駅周辺にて各自昼食 九分に向けて出発 九分散策 ホテルへ向けて出発 ホテルチェックイン（各部屋にて研修報告書作成） 【台北泊】	朝食：各自 昼食：各自 夕食：各自
03/14 （金）	台北市滞在	09：00 09：15 12：30 12：45 14：00 18：00	ホテル出発 台北市立大同高級中学 午前：ポスター発表・討論会、交流会、 ホテルへ向けてご出発 ホテル到着後、 各部屋にて研修報告書作成 夜市見学　<u>※松山駅 5 番出口 19：00 集合</u> 【台北 泊】	朝食：ホテル 昼食：学食 夕食：各自
03/15 （土）	桃園国際空港着 桃園国際空港発 仙台空港着	08：30 10：00 11：50 16：00	ホテル発　MRT にて桃園国際空港へ 桃園国際空港到着 ✈ 空路、仙台空港へ 仙台空港着　解散式	朝食：ホテル 昼食：機内食

○国立故宮博物院

3 月 9 日（日）国立故宮博物院を訪れた。台北市にある博物館で、中国の歴代王朝が収集した美術品を収蔵している。国立故宮博物院は、ルーブル美術館、メトロポリタン美術館、エルミタージュ美術館と並び、世界四大博物館のひとつと称えられている。

肉形見

肉汁たっぷりでいい香りが漂ってきそうな「肉形見」は玉髄類の一種である碧石（ジャスパー）で作られている。豚肉の角煮に非常に似た特徴的な層状の模様がある。この作品の作者はさらに表面に細かい孔を掘り、研磨し、その後、わずかに染色して赤みを帯びた豚皮のような外観を作り出した。
この巧妙な工芸品を収めるために、清朝宮廷は特別に金箔の台座を作った。精巧に作られた台座は、この美食的な芸術作品には少し不釣り合いに見えるが、この傑作の特異性を完璧に証明するものである。

乃孫作祖己鼎

深い胴部、折り畳まれた縁、直立した取っ手、円柱状の脚を備えています。器の腹部はわずかに垂れ下がっており、これは西周初期の様式である。内壁には「乃孫扎祖己宗宝黹量匚（报）宾」という 11 文字の碑文が刻まれている。碑文の内容は商人の言語を採用しており、文体は力強い。

玉圭

龍山文化時期、統治者のみが玉器を使用する資格を有し、玉器を身分の象徴とした。
これは龍山時期に黄河中下流で作られた玉の礼器であるとされており、刃先を上に向けて見ると、中段の辺りに浅い浮彫の一方は具象的な、もう一方は抽象的な面紋が表れる。表側の面紋は、頭に「介」の字形の冠を載せ、円眼、ゆがめた口、むき出しにした牙、そして耳には面紋のイヤリングが付いており、左右それぞれに人頭がぶら下がっている。裏側の面紋は、大きな渦を巻いた目に「介」の字形の冠が配置され、左右には拡げた鳥の翼と牛の角のような突起が見える。
3000 年あまりを経た後に、宮廷に伝わり、そこで清の乾隆帝がこの玉圭をこよなく愛し、詩にも詠んだとされている。現在研究が進み、下向きの刃を上向きにして展示するのが正しいとされている。

【仙台一高生の感想】
凄い量の展示だったので時間が足りなかった。今回、白菜は他の博物館に出張とのことで大変残念だったが、他にも見応えのあるものばなりで学びが深まった。特に翡翠で作られた「肉形見」は有名であり、考えていたものより小さかったがその精密な作りに感嘆した。

中華の至宝の数々に感動した。歴史に直に触れることができた貴重な体験であり、世界四大博物館と言われているのも納得の規模の大きさだった。陶器だけでなく山水画なども展示されており、その壮大さと美しさに圧倒された。

○国立南投高級中学

３月１０日（月）私たちは国立南投高級中学を訪れた。

歓迎式

校門での温かい歓迎のあと、体育館にて歓迎会が行われた。両校の校長や先生が英語で挨拶をし、プレゼントを贈りあった。

ポスター発表

体育館に移動し、それぞれのグループに分かれてポスター発表を行った。南投の発表は、面白い研究が多く、質疑応答では聞かれたことに対して自分の言いたいことを英語でしっかりと伝えていた。聴衆側でも、積極的に質問を行っていて発表をより良いものとしていた。日本人に比べ、主体的に英語を使おうという姿勢が見られ、多くの刺激をもらった。一高生も大きなミスなく発表を行うことができ、質問に対しても自分なりに英語で返答することができた。お互いにとって非常に有意義な時間となった。

授業体験

体育館でのポスター発表会が終わった後、各々がバディと一緒に教室に向かい、授業体験をした。日本語クラスでは Kahoot!というアプリを使って、台湾や日本に関するクイズ大会をグループ対抗で行った。どのグループも和気あいあいな雰囲気で、クイズも回を追うごとにどんどん盛り上がった。その後はグループごとにフリートークの時間になり、私はグループのみんなに台湾のおすすめの料理をたくさん教えてもらった。誰もが積極的に話し、交流していたので、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができた。

ビンゴ

校舎見学の後は、一高と南投のバディみんなで、台湾と日本の文化に関するビンゴを行った。まず、互いの文化について英語で説明し合い、ビンゴの表を完成させた。個人的には、漢文が日本独自の文化であることに驚くとともに、漢文をその概念が存在しない台湾の子たちに説明することがとても難しかった。その後、各グループがビンゴを目指し、開けたいマスの文化についてどんどん英語で説明していった。ビンゴ大会はとても白熱し、バディ以外の子ともたくさん話すことができる良い機会になった。

ＥＶ討論会

ビンゴ大会終了後、私たちは『電気自動車は従来の自動車に取って代わり、普及するのだろうか』、『電気自動車と従来の自動車の良い点と悪い点』について話し合った。どの生徒も積極的に英語で自分の意見や質問を話していた。日本でいう地球温暖化対策税である炭素税の話や、世界情勢の影響により円安になり、燃料が高騰しているという日本の状況も話に上がった。日本人の意見だけではなく、多様な視点から考えて議論できるという環境がとても新鮮で、有意義な討論会になった。

工芸体験

最後に、工芸体験ということで缶バッジ・ストラップ・マグネット作りをした。作るためのキットが配られ、各々好きな絵を描き完成した絵を専用の機械を使ってプレスし、世界に一つだけの作品を作った。台湾での思い出を絵に描く人や自分の好きなキャラクターを描く人など、自分の納得いく出来になるよう全員が集中して取り組んでいた。出来上がった作品をバディと交換するなどして、工芸体験を通してバディとの仲も深まり、楽しい時間を過ごすことができた。

○921 地震教育園区

3 月 11 日（火）滞在 4 日目の午前は台中の 921 地震教育園区にて地震のメカニズムと防災科学について学んだ。

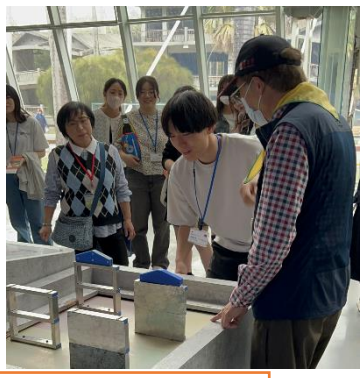
施設の説明

台湾は日本と同様、環太平洋火山帯に属する島であり頻繁に地震が発生する特徴を持ち合わせる。今回訪れた「921 地震教育園区」は 1999 年にそんな台湾中部で起こった台湾大地震による断層のずれ、校舎の倒壊、河床の隆起などを全てそのままの形で保存している世界でも重要な自然科学教材だ。全ての建設は 2007 年 9 月に完成され、車籠埔断層保存館、地震工学教育館、映像館、防災教育館、再建記録館などの展示館があり、大地震の記憶の風化を防ぐと共に、来館者へ地震がもたらす震撼性を感じさせたり、正しい防災観念を身に着ける機会を提供している。展示内容は地震科学に関する内容の他に、地震体験と防災教育施設を併設し、専門家の研究以外にも社会教育機関として利用されいる。

現地ガイドさんの講演

1999 年 9 月 21 日未明 1 時 47 分、台湾中部でマグニチュード 7.3 の大地震が発生した。2415 人の人が亡くなり、29 人が行方不明となった。このような大地震に備えて非常持出袋を用意するべきである。非常持出袋は片手で持ち上げることができるぐらいの重さで準備すると良いそうだ。そして、キャンプグッズは使い勝手が良く、また、乾電池で使用できるラジオは非常時の情報源として必須だ。その他、防寒着は派手で目立つものが良く、アルミのブランケットはかさばらずに持ち運ぶことができて便利である。

現地のおじいさんによるレクチャ



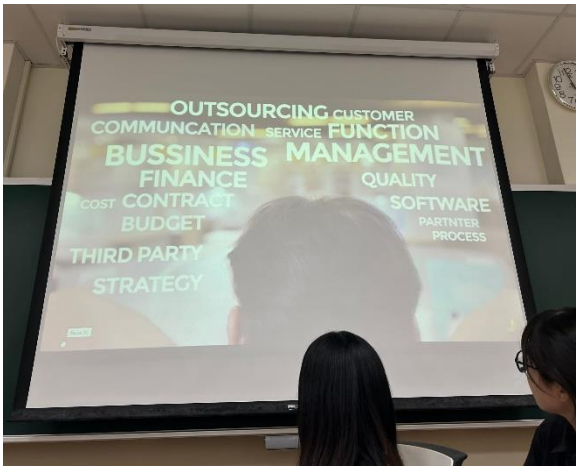
おそらくスタッフさんである、とある男性が液状化の仕組みと、家の構造と耐久性の関係などについて説明をしてくださった。この説明はいくつかの装置を用いての説明となり、言葉で聞くよりもわかりやすかった。とくに液状化の装置を用いての説明は、実際に液状化が起きる一部始終を見たことがなかったので、理解を深めることができ、興味深かった。また何人かの生徒は装置に実際に触れて、楽しみながら地震についての理解を深めることができた。

【仙台一高生の感想】

今までは、日本の地震についてばかり考えており、世界のほかの地域に目を向けていなかったので今回の地震教育で得た知識は大切にしていこうと思った。また、地震の被害にあった校舎の見学では、一年生のときにいった気仙沼の震災伝承館でみた校舎の光景と重なるものがあり、日本以外でもあの規模の地震があるということに驚いた。これからは今回の体験で得た知識を活かしてグローバルな支援について考えていこうと思った。

台湾の気候の特徴として高温多湿であることから、建物の多くは開放的な設計であるため、台風による建物の劣化が激しい。そのため、地震による影響も大きなものになってしまうのではないかと考えた。日本とは異なる視点で地震対策をする必要があると感じた。

〇国立清華大学での日本人留学生との交流会



日本人留学生との交流

3 月 11 日、私たちは清華大学に留学している 3 人の日本人学生さんにお話をうかがいました。清華大学の留学生には英語メインか中国語メインの 2 つのコースが用意されており、今回お話を聞いた 3 人は全員後者のコースを選択しているそうです。留学についてだけでなく、台湾での普段の生活や自らの経験など、多くのことをお話いただきました。

[お話を聞いてわかったこと]

・留学生は全校生徒の約 10%で、そのうち日本人の方が約 10%ほどを占めている
・入学試験はなく、TOCFL という台湾政府が正式に認めている中国語試験の基準をクリアした人が入学できる。また、同様にして学部を選ぶ際にも試験のようなものは特にない
・清華大学には様々な国籍の学生がおり、沢山の文化と触れ合える。3 ヶ国語以上せて当たり前。
・大半の学生はキャンパス内にある寮に入り、生活している
・台湾の大学生は日本の大学生よりがっつり勉強している。言うなれば高校の延長。
・サークルはほとんど無いが、サークルのような活動をしている団体はある
・台湾は外食文化であるため、学生寮に自炊用のキッチンはほぼない
・台湾に留学している日本人は大体台湾にルーツを持っている人が多い

[仙台一高生の感想]

留学することのメリットとして，自分たちとは異なる文化や人々に触れ，それらを理解することで国際感覚を養い，自分の視野が広がることが挙げられるのはもちろん，グローバル化が進む現代において，留学を通して複数の言語を話せるようになることは大きな強みになるとわかった。台湾で留学するならば，入学までに中国語を勉強するのが大変そうだと思っていたが，新しく覚える漢字も少なくそれほど大変ではなさそうだと思ったとともに，台湾での生活に慣れるのもそれほど難しくないとわかり，留学へのハードルが下がったような思いがした。

台湾の大学は日本と比べて授業料も安く、清華大には留学生のための学部も存在する。学期が 9 月始まりなので入学前に中国語や英語を勉強しておく猶予もあり、セカンドオピニオンとして海外の大学を視野に入れてもいいと思った。
また、台北から仙台まで 4 時間のフライトでつくので、実家にも帰りやすかったり日本旅行もしやすかったりと、台湾への留学では活動範囲が広がる点もいいと思った。

「留学」と聞くと、生活面や金銭面など様々な理由でハードルの高いことに思えていた。しかし台湾では奨学金制度が充実していて、留学生の方によると、親日の人が多く学外でも非常に優しくしてもらえたという。日本との往来もしやすく、日本人に易しい留学先だといえる。一方で、勉学に対する姿勢や生活など、日本と異なる文化も見られてとても興味深く感じた。

○国立清華大学にある先住民科学開発センター

3 月 12 日、私達は国立清華大学にある先住民科学開発センターを訪問しました。

Boys House

私達はバンブーハウスの地下にある先住民の伝統的な家の模型を見た。その模型の名は、Boys House である。集落の男子は 12~13 歳になるとこの家の中で人との接し方のルール、戦闘の技能などを学ぶ。また、家の構造にも工夫が見られた。建物中央の地面にある石を詰めた漏斗型のものは、建物に重心を与え、全体の重心を下げることで建物を安定させている。建物の下にある数多くの柱は、力を分散させて家を支えたり、風を吹き抜けさせることで台風の被害に備えたりするなどの効果がある。これらは日本の伝統的な構造にはあまりみられないものであったので、私達は新しい知識を得ることができ、非常に勉強になった。

Go Go Giwas

先住民の伝統的な家の模型を見たあと、私達は「Go Go GIWAS」というアニメを鑑賞した。このアニメは、台湾の先住民の文化や自然をテーマにした 3D アニメーションである。タイヤル族の少女 Giwas を主人公としていて、Giwas が部族のリーダーになるために奮闘する姿を描いた物語となっている。シカゴ国際児童映画祭での受賞歴もあるそうだ。アニメのプロデューサーであり先住民科学開発センターの所長でもある溥麗玉氏は、先住民のことを学ぶ際テキストなどよりも楽しみながら学べるアニメのほうが良いだろうと考えアニメを制作したと話していた。帰りにぬいぐるみまでいただいたこともあり一高生は全員 GIWAS の虜になってしまったようだ。

【一高生の感想】

施設見学やアニメ鑑賞、伝統的な遊びの体験などを通して、台湾の先住民についての知識を深めることができた。伝統的な住居は、風や雨から身を守り壊れにくくするために円形にするなど多くの工夫がされていてとても興味深かった。また GoGoGiwas が印象的だった。竹の弓矢のようなものやコマなど、自分たちで体を動かして楽しみながら伝統を体験することができて良かった。

日本と台湾の共通点と相違点を照らし合わせながら見学してみると、様々な発見をすることができた。また、実際に伝統的な文化について体験することで、異文化について触れることができ、私達の視野を広げることができたので今後も学びを深めていきたい。

○国立中正紀念堂

3 月 13 日（木）私たちは台北市内にある国立中正紀念堂を訪れた。

国立中正紀念堂とは

国立中正紀念堂とは、日本統治後に総統として台湾を統治した蒋介石を記念し、彼の死後に建てられた建築物だ。中正とは蒋介石の字（あざな）のことである。蒋介石が亡くなった翌年、彼の誕生日である 10 月 31 日に着工し、その 5 年後、彼の命日である 4 月 5 日に一般開放された。

蒋介石の巨大な像

本堂には、中正紀念堂のシンボルともいえる蒋介石の巨大なブロンズ像があり、その高さは 6.3mにもおよぶ。この像は、蒋介石が最期まで帰国することの叶わなかった故郷・中国の方向を向いて座っているそうだ。以前はこの像の前で衛兵交代式を見ることができたそうだが、2024 年に廃止されたらしく、今回は見ることができなかった。中正紀念堂は蒋介石という個人を崇拝する意味合いが強い建物である。そのため、近年の台湾の民主化を受けて、権威主義と個人崇拝の除去を行う目的で廃止を決定したそうだ。将来的には蒋介石の像も撤去される予定だが、すぐに取り掛かることは難しいので、その第一歩として衛兵交代式の廃止を行ったそうだ。

建築物の工夫

中正紀念堂のシンボルともいえる八角形の屋根　は、「忠、孝、仁、愛、信、義、和、平」という孫文が唱えた八徳を表しています。天井には国章である「青天白日」の徽章を見ることができる。
また階段は本堂の三方には花崗岩の階段が 84 段あるが、正面の階段にある 5 段を加えると 89 段になるので、これによって蒋介石の享年である 89 を表している。また、正面階段の中央には国の特徴であることを示す「御路」（中国の伝統建築において、宮殿や廟堂にのみ用いられる参拝路）がある他、3 層ある階段によって蒋介石と中華民国か奉ずる三民主義の「民権、民族、民生」を表している。3 層からなる本堂の広い基礎部分は全て正方形であり、これによって蒋介石の本名である「中世」の象徴をしている。

【仙台一高生の感想】

蒋介石の像は思っていたよりも大きくて迫力があった。国立中正紀年堂は台湾の独立を考えるうえで大切なものなのだと知った。蒋介石が実際乗っていた車や、身につけていたブローチとかもあって、興味深かった。展示品で特に印象に残ったのは、中正紀念堂前の写真で、若者が講義をしたことで 1996 年に人民に 1 人 1 票の投票権が与えられた、というのが若者の力を体現していてすごいなと思った。

蒋介石のブロンズ像の話に加えて、蒋介石の遺体を中国本土に埋葬するために今でも火葬せずに保存しているという話を聞いて、蒋介石の中国に対する思いの強さを感じた。台湾と中国の関係についての話も聞くことができ、一歩間違えれば戦争になるような緊張状態が続いていると知って驚いた。平和な日本にいるだけではではなかなかできない体験だったと思う。自国だけでなく、他の国や地域の歴史も知ることで自分の知見が広がるのを実感した。

○九份

3 月 13 日(木)、台北市内にある九份にたどり着く。峠をいくつも超えて到着。

概要

九份は台湾北部の新北市瑞芳区に位置する山間の街で、美しい街並みが特徴。かつて金鉱の町として栄えたが、閉山後は観光地として再生し、多くの観光客が訪れるようになった。赤い提灯が灯る石畳の階段や茶館が並ぶ「九份老街」は、特に日が暮れてから幻想的な雰囲気を醸し出している。日本ではジブリ作品『千と千尋の神隠し』のモデルとなったとされる風景としても人気がある。

名称の由来

由来には諸説あるとされているが、九份という土地の名称の由来にはには、「開墾した土地を 9 人で分けたもの」であるから。また、清朝初期には 9 世帯しかなく、ものを買う時には「9 つ分」と言っていたから。などが有力であるとされている。

九份の歴史

九份はかつて台湾の一寒村に過ぎなかったが、19 世紀末に金の採掘が開始されたことにより徐々に街が発展し、日本統治時代にその全盛期を迎えた。九份の石段や路地は当時に造られたものであり、町並みは日本統治時代の面影を色濃く残している。しかし、第二次世界大戦を契機に金の採掘量が減り、金鉱が閉山されてからは衰退の一途を辿ったそうだ。

1989 年に二・二八事件を題材にした映画「非情城市」のロケ地となったことで再び脚光を浴びるようになった。1990 年代初頭にブームとなり、メディアにも取り上げられ、観光地として若者を中心に様々な人が訪れる場所となった。今や台湾を代表とする観光名所であり、年間 185 万人もの人が訪れるようになった。

【仙台一高生の感想】

九份は、私がこの台湾研修で最も楽しみにしていた観光地です。午後 7 時頃から提灯のライトアップが始まり、スマートフォンの画面で見るよりもずっと綺麗で感動しました。天気はあいにくの曇り空で更に深い霧がかかっていましたが、それすら気にならない程の美しさでした。食べ物のお店も雑貨のお店もたくさんあって、短い時間でしたが大満足でした。特に台湾ならではのスイーツの豆花が美味しかったです。台湾の食文化と伝統を感じられてとても有意義な時間でした。

九份を訪れてみて、まず印象的だったのは町並みの雰囲気の良さでした。石畳の階段を歩きながら食べ歩きをしたり、仲良くなっていた台湾の学生に教えてもらったお店でスイーツを味わったりと様々な部分から九份を楽しみました。日暮れ後の景色は美しく、提灯が灯り、細い路地で淡く光る様子は、あそこでしか楽しむことのできない情景であったと思います。歴史を感じる街の風景と幻想的な夜景が合わさり、九份ならではの魅力を感じることができました。

○台北市立大同高級中学

3 月 14 日（金）台北市内にある台北市立大同高級中学を訪問。

歓迎式

校門での暖かい歓迎のあと、講義室にて歓迎会が行われた。両校の先生が英語で挨拶をし、お土産を贈りあった。一高からは宮城県のご当地キャラクター「むすび丸」の人形と日本のお菓子をプレゼントし、大同高校からはパイナップルケーキと亀の形をしたお菓子をもらった。お互い緊張した様子だったが歓迎式で先生同士が打ち解けている様子を見て生徒の表情も和らいだ。

ポスター発表

まず初めに大同高級中学の生徒の発表から始まった。ポスターではなくスライドを使った発表だった。スライドだからこそ動画などもあって分かりやすく発表していた。一高の研究に似たような研究もあって興味深かった。続いて一高のポスター発表が始まった。多くの生徒に真近で発表を見られるのは緊張したが、南投高級中学でのポスター発表で分かった反省点を活かして発表することが出来た。質疑応答も活発に行われ、ポスター発表を通して互いにコミュニケーションをして距離を縮めることが出来た。

Lunch Time

一高生はお弁当を、大同高中の生徒は給食を食べた。弁当のメニューは日本風の生姜焼きで、台湾で人気のドリンク専門店・50 嵐のタピオカミルクティーも用意してもらった。

大同高中の生徒とは、夜市でおすすめの食べ物や、台湾でおすすめの食べ物などについて会話をしながらランチの時間を楽しんだ。日本に訪れたことのある生徒が多くいたので、日本に旅行に来たときの話や、日本の食べ物やお菓子についての話も盛り上がり、みんな日本について詳しく知っていたので驚いた。

マシュマロチャレンジ

楽しい昼食の後は、テープとパスタを使ってより高いタワーを築き上げ、マシュマロを頂上に冠したものを作るという「マシュマロチャレンジ」で競い合った。言葉や文法の壁を超えて、ジェスチャーを交えてコミュニケーションを取ることで、国籍を超えて共により高いタワーを築くことができた。グループで一位を目指して意見を出し合うことで、一気に仲を深めることができた。

【仙台一高生の感想】

南投高級中学のときとはまた違ったプログラムで楽しむことができた。バディがいなかった分、特定の人とだけでなく様々な人と話して交流を深められた。特に昼ご飯の時間でお互いの興味を語り合い、台湾の高校生を身近に感じることができた。ポスター発表ではいろいろな質問が飛び交い活発な質疑が行われており、日本でのポスター発表で自分が目指す理想として常に頭の中に思い浮かべようと思った。

特に昼食とマシュマロチャレンジが印象に残った。昼食が日本とは異なりユニークだった。マシュマロチャレンジでは、言葉が通じなくてもコミュニケーションを取れることもあると気づかされた。これを通し共通の目標があれば、人間は言語の垣根を超えて絆を高めることができるということが分かり、これからの国際交流の在り方を考えるヒントになると考えた。